

## 論文要旨

### 1. シリワット・コッチャコン(タイ)

#### 「日本人女性とタイ人女性の化粧意識・行動の比較」

キーワード: 日タイ比較、化粧意識・行動、流行のメイク、女子大学生・大学院生

要旨: 化粧というのは顔やからだを加工することで、シャワーを浴びることや、メイクアップ、ダイエットなどが含まれるが、本稿の「化粧」は、メイクアップの意味に限定する。日本人の化粧はユニークで印象的であるため、研究したいと考えた。

まず、第1章では、化粧ということばの辞書的な意味、化粧の分類、化粧の歴史、化粧の目的について述べる。第2章では、日本人女性とタイ人女性の化粧意識・行動についての先行研究から分かったことを述べる。地理的に両国は違っても、女性の化粧意識には共通点・相違点があった。そして、第3章では、日本とタイの女子大学生・大学院生を対象に筆者が行った化粧意識・行動に関するアンケート調査について述べる。その結果、日本人女性のメイクを始める年齢は、タイ人女性とほぼ同じことが分かった。また、両国の女子学生が化粧好きなのは、化粧は元気と自信を出させ、自己解放ができるからではないかと考える。さらに、大学に入る前はまだ若いと考えメイクをする必要はないと考えているが、大学生になると大人になったと感じ、メイクが必要になる。つまり、両国の女子学生はメイクを社会的なマナーと意識していることが分かった。

### 2. モールップ・エミル(スウェーデン)

#### 「北欧人の行動様式 —「ヤンテの法」とは何か—」

キーワード: ヤンテの法、十戒、北欧の行動様式、北欧の文学、アクセル・サンデモーセ

要旨: 本論文で扱う「ヤンテの法」は、アクセル・サンデモーセが自身の著書の中で、北欧人の考えと行動様式を規定する不文法(習慣法)とその現象として初めて言語化したものである。この著書の出版後、「ヤンテの法」はスカンディナヴィア諸国の民族の常識のようなものになり、学問的な研究のテーマとしても扱われている。

本論文では、アクセル・サンデモーセの著書とそれについての情報を日本語で紹介し、更に、北欧社会の特質について考察する。最初に著者であるアクセル・サンデモーセについて、次に「ヤンテの法」が初めて言語化された著書について、その次に「ヤンテの法」の内容を詳しく紹介する。その後、本書の諸側面を分析し説明する。そのために、様々な資料とスウェーデン人である筆者の経験を用いる。「ヤンテの法」が初めて言語化された『En flykting korsar sitt spår』のスウェーデン語版は本研究の中心となり、そこで「ヤンテの法」がどのように表現されているのかを考える。結果として、「ヤンテの法」は、キリスト教(プロテスタント)の影響を大きく受けているということが分かった。宗教が価値観と行動様式を規定し、信仰心が薄いからでも、その価値観と行動様式は文化的に残っている。そして、それぞれの個人はこの価値観と行動様式に従い生きており、その範囲内で個人主義が実現されている。このように、「ヤンテの法」と個人主義が共存できるということが明らかになった。

### 3. 許 竣碩(ホ ジュンソク・韓国)

#### 「韓国人の日本認識について ―姜沆(カンハン)の『看羊録』を中心に―

キーワード: 姜沆(カンハン)『看羊録』、壬辰倭乱・丁酉再乱、姜沆の日本観、韓国人の日本認識

要旨: 日本と韓国は、「近くて遠い」隣国である。「近く遠い」とは、地理的には「近い」が相互に深く理解していない(「遠い」)ことを意味している。しかし双方とも、自国の歴史を語る上で、相手を無視することはできない、なくてはならない存在である。

歴史的な認識の重要性は、例えば、日本では文禄・慶長の役、韓国では壬辰倭乱・丁酉再乱と呼ばれる、両国の戦乱に関わる現代的な展開を見ても明らかである。2014年に、韓国では映画『鳴梁』が爆発的な観客動員を記録したが、この作品は、日本では公開されてもいない(大ヒットの要因は、韓国でも、その芸術性より歴史認識を下地にしたことにある、という意見もある)。

上記のように、韓国と日本には、常に、相互への認識の差異が存在している。本稿では、このような差異の過去と現代を分析し、その解消の未来を展望するため、丁酉再乱時に日本の捕虜となった儒学者・姜沆(カンハン)の記録『看羊録』を読み解く。韓国の人々の日本認識に関する「継続と断絶」を考察し、未来に向けての相互認識と融和について提言してみたい。

### 4. 梁霄(リョウ ショウ・中国)

#### 「日本のあいさつ語の特徴及び日中あいさつ語の比較」

キーワード: あいさつ語、日本のあいさつ語の特徴、日中比較、日本語学習者

要旨: 初めて会うことが明らかな場面で、日本人はなぜ初対面の人にわざわざ「初めまして」と言うのか、「すみません」は元々謝罪する言葉なのに、なぜ感謝するときや呼びかけるときにも言うのかなど、日本語を勉強し始めたときから常に日本のあいさつ語について多くの疑問を持っていた。来日して日本人の日常生活に接することができるようになってから興味が一層増し、あいさつ語について研究することに決めた。

「あいさつ」は日常生活の中で良好な人間関係を保つのに欠かせないものであり、人々が円滑につき合うために肝心な役割を果たしている。本論文は、まず日本のあいさつ語の特徴を考察する。それを踏まえ、場面ごとに日中のあいさつ語を比較し共通点と相違点を明らかにする。そして、中国人の日本語学習者にインタビューし日本語科の学生の特有な言語行動について考察する。

あいさつは人間のコミュニケーションの最も基本的なものだと言えるだろう。簡単そうに見える日常のあいさつ語からでも、その国の言語表現の特徴、対人関係または言葉の裏に隠れているものの考え方など文化的側面が窺える。本論文が両国人のお互いの文化の理解に役立てばと望んでいる。